かいぞう歴史ロマン～上野遺跡で大発見！～

あなたは、知っていますか？
大字西阿倉川字上野で行われた、発掘調査（3次調査・平成28年度）で大発見があったことを…。

今では住所に「小字（こあざ）」を使うことはなくなりましたが、海蔵神社の西側に「字上野（あざうえの）」と呼ばれる場所があります。
遺跡が見つかると、その場所の「小字」から遺跡名が決まることから「上野遺跡」と呼ばれています。

今回の調査では、古墳時代（約 1400 ～ 1350 年前）に造られた「横穴式石室がある古墳」と平安時代末～[illegible]時代（約 850 ～ 500 年前）にかけての「様々な[illegible]や生活の跡」などが発見されました。
なかでも、「和鏡」は四日市市市内で初出土の大発見！！

平成 29 年 1 月 14 日に、現地説明会が行われ、雪が降る寒い日でしたが、たくさんの人が参加しました。

「横穴式石室」の東側には「基底石」が南北方向に５つ真っ直ぐに並んでいました。「基底石」は１つ数百キロ前後の石が使われていましたが、海蔵川流域で産出されたものではなく、員弁川上流域から運ばれた青川石と呼ばれる石でした。これは、水運を利用して大規模な古墳を造るほどの有力者が、この地域に存在していたことを裏付けています。




旧土地台帳付属地図改租図



発掘当時「横穴式石室」の床面には、須恵器の台付直口壺、短頸壺、高坏、坏身、坏蓋などが供えられていました。

今回の発掘調査より北側で行われた、１次調査（平成元年）と２次調査（平成２年）では、弥生時代の集落跡も見つかっています。このことからも様々な時代の人たちがこの土地で生活をし続けていることが想像できます。今、暮らしている私たちも「海蔵地区」の歴史を学び、未来へと繋げていきたいものです。

※「和鏡」の写真は四日市市教育委員会提供